

# 令和2年度 第1回 川崎市総合教育会議

## 新型コロナウイルス 感染症への対応について

令和2年8月5日(水)

# 1 コロナ禍における各施設の状況

# 1 コロナ禍における各施設の状況

---

## ◆国の動き

・令和2年2月27日 学校における全国一斉の臨時休業を  
内閣総理大臣より要請

4月7日 緊急事態宣言発令

5月25日 緊急事態宣言解除  
(北海道、東京、神奈川、埼玉、千葉)

# 1 コロナ禍における各施設の状況

## ◆学校



令和2年3月4日～5月31日 臨時休業

5月21日 市立学校の再開に向けた基本的な考え方  
及び市長メッセージの発出

5月22日 学校再開ガイドラインの策定

5月25日～5月29日 児童生徒の状況把握

(個別相談日、家庭訪問、電話連絡)

6月1日～6月12日 分散登校期間

6月15日～ 通常登校(給食あり)

# 1 コロナ禍における各施設の状況

## ◆図書館

令和2年3月2日～4月10日 閲覧席の利用を休止

4月11日～5月26日 臨時休館

(返却とHPの閲覧のみサービス提供)

⇒**閲覧・貸し出し等のほぼ全てのサービスを停止**

5月27日～5月31日 時間短縮による開館

6月1日～ 通常時間による開館(※)

※段階的にサービスの提供を再開

7月1日～ 閲覧席の利用等を再開



# 1 コロナ禍における各施設の状況

## ◆市民館

令和2年4月11日～5月31日 臨時休館

6月1日～ 一部開館(※)

※段階的にサービスの提供を再開



## ◆博物館施設（科学館・民家園）

令和2年4月11日～5月31日 臨時休館

6月2日～ 一部再開

※段階的にサービスの提供を再開



# まとめ

## ◆ 臨時休業（館）時における主な対応

施設	主な内容
①学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習の支援</li><li>・児童生徒の健康状況等の把握</li><li>・児童生徒の居場所を設置</li></ul>
②図書館	<ul style="list-style-type: none"><li>・返却本の受付</li><li>・HPによる情報提供</li></ul>
③市民館	<ul style="list-style-type: none"><li>・全てのサービスが停止</li></ul>
④博物館	<ul style="list-style-type: none"><li>・デジタルコンテンツの提供 (おうちで楽しむデジタル科学館)</li></ul>

## 2 顕在化した課題

## 2 顕在化した課題

### <主な課題>

学校教育

児童・生徒

- ・学習の遅れ
- ・体力の低下
- ・ストレス等に  
対する心のケア 等



保護者

- ・感染症への不安
- ・家庭での学習指導  
の負担感 等



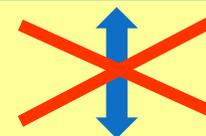
学校

- ・教育課程の遅れ
- ・教職員の勤務や  
研修に関すること
- ・行事の中止
- ・部活動の休止
- ・感染症対策

- ・家庭とのコミュニ  
ケーション
- ・学習保障

社会教育

利用者



・サービス提供

社会教育施設

- ・感染症対策
- ・利用者への周知 等

臨時休業(館)中にみえてきた課題は多岐にわたるが、今後、教育が大きく直面する課題を抽出

<学校教育> ・家庭とのコミュニケーション ・学習保障

<社会教育> ・サービス提供

## 2 顕在化した課題

### ◆学校教育

(1) 学校と家庭とのコミュニケーション

(2) 学習保障・教育機会の確保



### ◆社会教育

(1) サービス提供がストップ



## 2 顕在化した課題

### ◆ 学校教育

#### (1) 学校と家庭とのコミュニケーション

#### 課題

##### ① 学校のHP

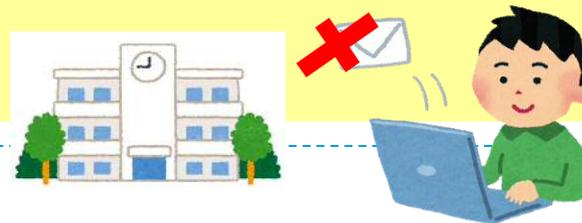


各学校がHP作成ソフトで更新したデータを情報視聴覚センターで審査を経てアップロードをしており、迅速な情報発信に課題

(審査件数 R1:3,800件程度 R2. 4月~5月 2,000件程度)

##### ② メール配信システム

教委・学校からの発信機能のみであるため、家庭から情報を受け取ることができない。



## 2 顕在化した課題

### ◆ 学校教育

#### (1) 学校と家庭とのコミュニケーション

#### 課題



#### ③ 公用電話

学校から家庭に連絡をとる際には、2回線の固定電話での対応が基本となるため、連絡をとるのに時間がかかる。

#### ④ 出欠席状況の確認手段

電話や連絡帳でのやりとりが基本であるため、連絡帳をクラスメートに預ける手間がかかることや、連絡事項の伝達における迅速・正確性が欠ける。

## 2 顕在化した課題

### ◆ 学校教育

#### (2) 学習保障・教育機会の確保

#### 課題



対面における授業ができない状況において、家庭学習すべき範囲をプリント等で示し、課題の配布、回収を定期的に行うことで、学びの保障に努めてきたが、課題も顕在化した。

①ICT環境の整備の状況や、ノウハウの不足により、オンライン学習への対応が学校によって異なる。(Zoomの活用やデジタルコンテンツの紹介等)

・Zoom等双方向でのオンライン指導の実施校 5月:19校⇒7月:59校 (小・中・特・高174校中)

・YouTube等単方向でのオンライン指導の実施校 5月:20校⇒7月:42校 (小・中・特・高174校中)

②家庭学習用の課題について、新しい単元を学習することの難しさや  
一人ひとりの学力に沿った解説をその場でできない。

③学習へのモチベーション向上にむけて働きかけることが難しい。

## 2 顕在化した課題

### 単方向のオンライン指導（YouTube等）の事例

#### 例①: 全学年 学校スタート大作戦



学校再開に向け、生活習慣の見直し等のメッセージ(約6分)

## 2 顕在化した課題

### 単方向のオンライン指導（YouTube等）の事例

#### 例②：1年 図工「ねんどをつかってみよう」



粘土を使った学習について技法の説明（約5分）

## 2 顕在化した課題

### 双方向のオンライン指導（Zoom等）の事例

#### 臨時休業期間中に実施した事例①



#### 「担任と児童がつながる日」

Zoomを活用し、子どもたちの様子を把握

## 2 顕在化した課題

### 双方向のオンライン指導（Zoom等）の事例

#### 臨時休業期間中に実施した事例②



Zoomを活用し、オンラインでの授業を実施

## 2 顕在化した課題

### 双方向のオンライン指導（Zoom等）の事例

#### 分散登校中に実施した事例



クラスを越えて、学年で同じ授業を展開

## 2 顕在化した課題

### ◆ 社会教育

#### (1) サービス提供がストップ

#### 課題

- ・ 対面によるサービスを前提としてきたため、施設に来所できない状況になった場合、利用者へのほぼ全てのサービス提供がストップしてしまった。

図書館：閲覧・貸し出し等のサービス停止

市民館：貸館業務、社会教育事業停止



- ・ 一方、市民からは、図書館サービスについては、臨時休館中においても、図書の貸出ができるよう多数の要望が寄せられた。



# 3 今後の対応

### 3 今後の対応

#### ◆ 学校教育

課 題	課題への対応案
(1) 学校と家庭とのコミュニケーション	
①学校HP	CMSの導入(CMS=コンテンツマネジメントシステム)
②メール配信システム	アンケート機能など受信も可能なシステムへの見直し
③公用電話	スマートフォンを各学校に配備(R2.5.15済)
④出欠席状況の確認手段	確認手段のオンライン化
(2) 学習保障・教育機会の確保	
オンライン学習の充実	コロナウイルスの第2波等に備えて、オンラインで授業を実施できる体制の構築

### 3 今後の対応 ～(1)学校と家庭とのコミュニケーション～

#### ①学校HP

- ・家庭や地域への情報発信を迅速に対応する必要がある
- ・HPの更新維持が煩雑であるため教員の負担が大きい
- ・HPに効果的に情報を発信し、保護者等にアクセスしてもらう必要がある



## CMSの導入

CMS：ウェブコンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報等を一元的に保存・管理しHPを構築したり編集したりするソフトウェアのこと。

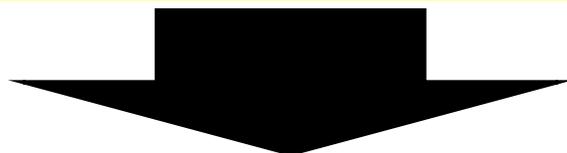
- ・審査権限を学校に移すことで、即時に更新が可能となる
- ・更新作業が定型的なため、効率的に学校から情報を発信することが可能
- ・更新頻度が多くなることで、保護者等の興味・関心の高まりにつながる

好循環が  
生まれる

### 3 今後の対応 ～(1)学校と家庭とのコミュニケーション～

#### ②メール配信システム

- ・発信機能のみであるため、家庭から情報を受け取ることができない
- ・各家庭に同じことを聞く場合でも、電話等で個別に確認しなければならなかった（例、家庭の通信環境の調査等）



#### アンケート機能の追加

- ・各家庭に同時に発信することができ、即時に対応が可能となる
- ・アンケートの集計もシステムで行うことができるため、手間がかからない



## 3 今後の対応 ～(1)学校と家庭とのコミュニケーション～

### ③公用電話

- ・学校から家庭に連絡をとるには固定電話で対応するのが基本
- ・多くの学校では2本の電話回線しか引かれていないため、電話をかけたい時に待たなければならない状況が多い



### スマートフォンを配備 (R2.5.15済)

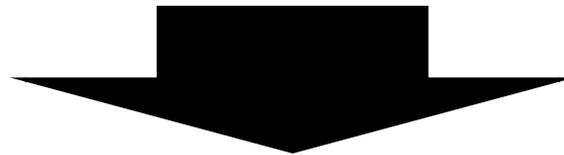
- ・学校規模に応じて、2～4台のスマートフォンを配備
- ・職員室以外の教室からも電話がかけられるようになった
- ・スマートフォンが配備されたことで、Googleアカウントを取得することが可能になった



### 3 今後の対応 ～(1)学校と家庭とのコミュニケーション～

#### ④出欠席状況の確認手段

- ・多くの学校では欠席の確認を電話や連絡帳を介して行っている
- ・連絡帳をクラスメートに預ける手間がかかることや、連絡事項の伝達における迅速・正確性が欠ける
- ・時間帯によっては電話が集中してつながりにくいことから、保護者にとって不便



#### 出欠席の確認手段のオンライン化

- ・保護者から学校への欠席連絡をオンライン化することで、利便性を向上
- ・学校のPCでリアルタイムで出欠状況の確認が可能となる
- ・教員の電話対応の時間を縮減できる



### 3 今後の対応 ~ (2) 学習保障・教育機会の確保

#### ◆オンライン学習の充実

学校の状況により対応が異なる



#### オンラインで授業を実施できる体制の構築

- ・コロナウイルスの第2波等に備えることやアフターコロナを見据え、「対面での授業」と「双方向のオンライン指導」両方の方式の授業を実施できる体制の構築
- ・いずれの指導の方式でも適切に実施できる人材を育成
- ・緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備

切れ目のない子どもたちの健やかな学びの保障



### 3 今後の対応

#### ◆ 社会教育

コロナウイルスの第2波等に備え、再び休館となった場合のサービス提供の方法や非来館型のサービスについて検討が必要

検討項目(例)	検討内容
①図書宅配サービス	予約した図書の郵送、宅配サービス(利用者負担)
②電子書籍の貸出	電子書籍を閲覧できるサービス
③図書館事業のオンライン化	オンラインでレファレンスや読み聞かせの実施
④市民館事業のオンライン化	講座の動画配信(双方向型の講座を含む)

※高齢者や障がい者などこれまでサービスの利用が困難であった方のニーズにも対応が可能

⇒新たなサービスの実施にあたっては「今後の市民館・図書館のあり方(R2年度末策定予定)」にも反映していく

# まとめ

## ◆ 今後のサービス提供のあり方

コロナウイルスの第2波や予測できないあらゆるリスクに備える必要がある。



◆ サービス提供を「対面型」と「オンライン型」のプラットフォームを構築

⇒ どちらかが提供不可能な状況になっても、他方が補う「多重化」を推進する必要がある

～すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する～

